
6. 書評

「経験バイアス ときに経験は意思決定の敵となる」

著者：エムレ・ソイヤー
ロビン・M・ホガース
訳者：今西 康子
出版：株式会社 白揚社
発行：2024年8月14日



私たちが、新たな仕事や行動に向かうとき、過去に経験があるかないかで取り組む時の気持ちや姿勢は大きく変わる。経験があれば、何となくイメージがわき、展開の予想もつくので安心できるが、逆に経験がないと取り組み方もわからず、常に不安を感じながら向き合うことになる。こうした場合、経験は強い味方ということになる。

一般的に、大多数の人が経験を信頼している。自ら経験したことが、好みを決め、直感力を養い、意思決定の道しるべとなっている。経験は大切な教師であってその教訓はいつまでも自分の見方になってくれる。どんな社会でも経験は尊ばれる。誰もが経験豊富な医師、弁護士、政治家、経営者を求める。経験は豊かであればあるほど望ましいものといえる。

しかし、一方で経験に頼りすぎると、経験が授けてくれる「知識」のせいで、本当は思慮不足なのに、知恵者になったような気になってしまうこともある。経験のバイアスがかかり、経験に基づく教えが、意思決定や判断を誤らせ、時として致命的な結果をもたらしてしまうという事実は、私たち人間が物事を学んだり考えたりする上で由々しき問題となっている。

○ 経験のメリット

- ・ 無意識のうちに学べる
- ・ 迅速に学べる
- ・ 心強い味方になる
- ・ 永続性がある
- ・ 他者の経験からも学ぶことができる

○ 経験のデメリット

- ・見落としているものがしやすい
- ・無視すべきものが見えにくくなる
- ・いったん学んでしまうと、忘れることが難しい
→ これらが経験バイアスとなってしまう

筆者は、結びで「経験は、確かに、信頼できる教師、かけがえのない友人、なくてはならない味方になってくれる。経験は大切な情報源なのだ。経験から得られる教訓は、私たちの選好や認識を形成する一翼を担っている。だからこそ、経験にはバイアスがかかっていることを認識し、どんな環境下で得られた教訓なのかを、批判的な目で見ることが極めて重要なのだ。」と述べている。経験に頼りがちな私も教訓としたい一冊である。

序章 経験はすばらしい教師だ

— が、そうではないこともある —

第1章 人をあざむくストーリー

— 経験が単純すぎる物語になるとき —

第2章 ひらめきの喪失

— 経験が創造力を削いでしまうとき —

第3章 リスクに気づかない

— 経験が危険を隠してしまうとき —

第4章 見せかけの自由

— 経験が選択の幅を狭めるとき —

第5章 心地よければやってよし

— 経験が節操を失わせるとき —

第6章 百発百中の魔弾

— 経験が成功の秘訣の幻想をもたらすとき —

第7章 幸せの妨げ

— 経験が満足を損なうとき —

結び 経験コーチの知恵

起業教育研究会 企画委員
奈良県立商業高等学校
校長 谷口 達之輔